

ものごと(学問・道)を、「知る」、「好きになる」、「楽しむ」ことを目指そう

— 「知る」「好きになる」「楽しむ」 —

開倫塾

塾長 林明夫

Q：ものごと(学問・道)を「知る」「好きになる」「楽しむ」、なかなかおもしろそうですね。

A：(1)実は、このことばは、孔子の教えを弟子たちが 499 の章にまとめた「論語」にある教えの一つです。

(2)「子(し)曰(い)わく、之(こ)れを知る者は、之れを好む者に如(し)かず。之れを好む者は、之れを楽しむ者に如かず」

〈通釈〉孔子が言った。ある物事(学問・道)について、それを単に知っている者は、それを好む者には及ばない。しかし、それを好む者だって、その物事について楽しむ者には及ばないのだ。

* 須永美知夫著「論語抄」史跡足利学校発行より引用。

(3)「之れ」には、物事、つまり、学問・勉強だけでなく、すべてのことがらがあてはまると考えます。

Q：スポーツや芸術などの部活動や、生徒会活動なども入るのですか。

A：(1)その通りです。例えば、サッカーの練習をやっていると、サッカーのことがだんだんわかってきます。ルールや練習の方法、いろいろな技術を知り、身に着ければ着けるほど、サッカーが好きになります。好きになればなるほど、サッカーをすることが楽しくなるのではないのでしょうか。

(2)また、例えば、吹奏楽部に入って、クラリネットの演奏の仕方を知り、練習を積み重ね、少しずつうまく吹けるようになると、クラリネットが好きになります。そして、クラリネットに慣れ親しめば親しむほど、クラリネットを演奏することが楽しくなります。音楽が楽しくなります。このようなこともあると思います。

(3)勉強も同じかもしれません。初めはわからなくて大変だった数学や英語、理科、社会、国語も、その内容を少しずつ知り、どのようなことなのかがわかってきて、よく「理解」できるようになると、好きになることがあります。

数学の問題が解けたり、英語を読んだり、聞いたり、話せたり、書けたりすると、数学や英語がだんだん好きになることがあります。勉強をすればするほど、数学や英語を学ぶことが楽しくなることもあります。

Q：同じように、受験勉強にも「知る」「好きになる」「楽しむ」があてはまりますか。

A：受験勉強も、その「大切さ(価値)」や自分にとっての「意味」がわかってくると、学問・勉強を「知る」「好きになる」「楽しむ」ことの「きっかけ」になるかもしれません。

Q：では、お聞きします。受験勉強の「大切さ(価値)」、「意味」とは何ですか。

A：(1)受験勉強とは、「第1志望校」に合格できるだけの力を身に着けることです。「第1志望校」に合格するためには、出題される全教科の内容について、まずはよく「知る」こと、「理解する」こと。次に、その内容を正確に「身に着ける」こと。そして、入学試験で合格点を取ることが求められます。

(2)出題される全教科の内容は、「第1志望校」での勉強にすべて役に立つ大切な「価値」のあるものばかりです。自分のものにしてから「第1志望校」に進学すると、上級学校での勉強がどんどんはかどります。しっかり「意味付け」を行ってくださいね。また、学校で習う内容は、社会に出てもすべて役に立ちます。

(3)勉強をしっかりすればするほど、受験全教科の内容をよく「知る」ことになり、知れば知るほど、学べば学ぶほど、勉強が「好きになる」、「楽しくなる」と私は思います。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)受験勉強を通して、今までに学んだことをスミからスミまで正確に「理解」し、「定着」させることは、入学試験に合格できるだけの学力をつけるだけでなく、第1志望校入学後の勉強に役に立つ。社会に出てから役に立つ。このように考えましょう。

(2)中学校・高校での勉強を、折に触れて一生続けると、人生が充実し、「楽しくなる」といえます。

(3)ですから、学校の教科書や教材、辞書などは、卒業後も決して処分しないことを、最後にお願いします。